

平成28年度千葉市立郷土博物館

自己点検・自己評価表 中間報告（12月末現在）

《活動目標》

- 千葉氏に関する情報や千葉市の文化の特徴を明らかにし、地域の発展に役立つ拠点をめざします。
- 新たな調査・研究を提案し、その成果を発信する博物館をめざします。
- 市民・利用者が集い、千葉市を愛し、誇りとする拠りどころが得られる博物館をめざします。

I 生涯学習機関としての自己評価

		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
1	展示の観客者数（入館者） （幼児、児童）	30,169 人 （6,402 人）	37,018 人 （4,700 人）	45,051 人 （8,067 人）	45,366 人 （9,615 人）
2	観覧者の評価状況 （「大変良い」、「良い」の回答率）	-	-	-	企画展アンケート結果 81.8%
3	講演会等の実施回数	24	24	24	23
4	講演会等の参加者	1,077	1,190	1,747	集計中
5	学芸員実習の受け入れ	4	5	5	6
6	職場体験等の受け入れ	11	10	15	14
7	解説ボランティア人数	45	50	58	62
8	バックヤードツアーの実施	-	-	2件	9件

観光資源としての活用

	開館日1日あたり人数	平成 27 年度	平成 28 年度
1	市内観覧者数	51	70
2	県内観覧者数	42	49
3	県外、海外観覧者数	24	26

《本年度の取組》

項目	内容	評価
ハンズオン展示	ハンズオンの展開について調査し、体験の場の充実を図ります。また、「回想法」等の認知症の療法を実践できるよう展示環境を整え、さらに視覚障害者をはじめ多くの人々が博物館をより身近に感じることができるようになります。	△
学校利用	博物館の学校団体の利用は重要であるとともに、学校にとっても貴重な体験のできる効果的な教育活動として位置づけ、「博学連携」を展開します。学校による博物館のよりよい利用形態を模索します。	◎
協働による博物館教育	教育普及についてボランティア、NPOなどの団体、技術や経験をもつ個人など多様な人材がかかわり、学芸員と協働し、質の高い博物館教育を実現します。	○
体験プログラム	土曜日にさまざまな体験プログラム（昔の遊び体験・昔の着物や鎧の着用体験等）を実施し、必要な教育的要素を検討します。	△
館内情報の提供	Web ページを更新するとともに、Facebook、Twitter などの SNS による情報発信手段の選択を検討します。	○
博物館の在り方検討	博物館の今後の在り方とリニューアルに向けた検討を開始し、地域の中の博物館としての現状認識と今後の方針についても内部で共有します。	◎

Ⅱ 千葉氏を核とする歴史研究機関としての機能

		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
1	解説員の実績（回数）	1, 612回	1, 821回	2, 272回	2, 189回
2	来館した小中学校（団体）		7校	18校	27校
3	学校へのお出前講座 ※着用体験含む	—	—	8校	8校
4	教職員の教材研究支援等			4件	6件

《本年度の取組》

項目	内容	評価
小企画展の実施及び 特別な企画展の実施	個々の学芸員がテーマの設定、調査、発信、公開等の小企画展を実施するとともに、特別な企画展の開催に向けては、組織的な取り組みを進めます。	○
学芸員の調査研究	学芸員が各自の調査テーマを設定し、それに基づき積極的に調査を行います。	◎
学校や教職員との連携	学校との連携は、出張授業の実施のほか、教職員のための企画展のワークショップや博物館の利用研修、教材研究の支援を行います。	○

Ⅲ 地域の開発拠点としての機能

※平成28年度は12月31日現在

		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
1	イベント等の実施 (館、館外でのイベント実施)	22	22	23	19
2	地域おこし活動への参加 (観光協会その他との連携)	1	7	3	4
3	ボランティア養成研修	10回	10回	10回	11回

《本年度の取組》

項目	内容	評価
地域との連携	地元の文化財のみならず、生活する人々とその活動すべてにかかわりを持ち、地域の学校や社会教育施設、文化団体、商業施設やマスコミなどと連携を検討します。	△
観光プロモーション等	高齢者・障害者・外国人等誰でも利用しやすい施設・設備にしていく必要があり、ユニバーサルデザインへの対応のほか、施設・設備の総合的な改修案を立案し、具体化を進めます。	×
史跡探訪	史跡、遺構、現存する建造物等を、地形的地勢的に紐解きながら、博物館職員が中心になり、これらを観光資源として探訪する「街歩き」を実施し、「観光資源を活かした新たな博物館の在り方」など博物館の新たな可能性を模索します。	△
グッズの開発 イメージの向上	来館した児童等に「探検シート」を提供し、ぬり絵葉書や手製のかざぐるまをプレゼント、5階展望を憩いのスペースとして環境を整えます。	◎

Ⅳ 資料（文化財）保存としての機能

		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
1	資料等の調査件数		4	2	集計中
2	資料等の収集件数			408	集計中
3	資料等の貸し出し件数		41	31	集計中
4	資料等の収蔵点数	28,093	28,527	28,916	集計中
5	IPM、所蔵資料の点検活動 ※燻蒸、環境調査	各 1 件	各 1 件	各 1 件	各 1 件

《本年度の取組》

項目	内容	評価
図書収集と閲覧	継続的に書庫内の書架、閲覧室の書架の整理に努め、平成 27 年度に設けた閲覧室の活用を検討します。	△

V 広報体制、パブリックな機能に関する自己評価

		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
1	市政だよりへの掲載数 ※教育だより千葉へのコラム掲載数	23 -	24 -	20 -	16 3
2	観光情報誌などへの掲載数	18	22	21	15
3	館内の環境状況（心地よさ） *ユニバーサルデザインの取組				*5F展示室の テーブル増置 *英語解説シートの検討

《本年度の取組》

項目	内容	評価
空調機器の調査	夏季の館内の温湿度の定時測定を実施するとともに、空調機器のレンタル業者によるデモンストレーションを実施し、心地よさの追求をします。	○
ユニバーサルデザインの検討	外国人観覧者の増加に備えて、展示解説員（ボランティア）の協力を得て英語解説表記の検討をします。	○